

水稻の秋期管理情報第1号 (イネ白葉枯病、イネ縞葉枯病、ニカメイガ)

令和4年10月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

収穫後は、速やかに株をすき込みましょう！

収穫後に耕うんや畦畔雑草の除草を行い、病原菌の伝染源や害虫の越冬場所をなくすことで、次作での病害虫の発生量を減らすことにつながります。収穫後は、刈り株の早期すき込みや畦畔雑草の除草を実施しましょう。

1 イネ白葉枯病

9月下旬の巡回調査において、イネ白葉枯病の発病株率は4.88%（平年2.39%、前年8.03%）と過去10年間で3番目に高い状況でした。また、**ほ場全体で発病株が見られたほ場も報告されています。**

本病の病原菌は、被害わら、もみで越冬し、次作の伝染源となるため、**秋期に稲わらをすき込み、腐熟させましょう。**また、畦畔雑草である**サヤヌカグサ**でも越冬するため、**畦畔除草を行いましょう。**

2 イネ縞葉枯病

本年のイネ縞葉枯病の発生量は概ね平年並ですが、ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高い地域があったため、注意が必要です（表）。

本病は、ヒメトビウンカが媒介します。イネが本病に感染すると、葉先が「こより状」に垂れ下がり枯死します（ゆうれい症状）（図）。また、穂が出すくんだり、不稔になったりすることにより減収します。

ひこばえは、ヒメトビウンカの生息場所になることに加え、ヒメトビウンカが発病株のひこばえを吸汁することにより、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率の上昇につながります。**収穫後、できるだけ早く耕うんするなど、ひこばえを放置しないようにしましう。**また、ヒメトビウンカは、畦畔等のイネ科雑草でも越冬するため、**ほ場周辺や畦畔等の除草を徹底しましう。**

3 ニカメイガ

9月下旬における巡回調査において、ニカメイガの被害株率は0.22%（平年0.28%、前年0.87%）と平年並でしたが、弥富市に設置した予察灯において、7月中旬から8月下旬にかけて成虫の誘殺が多い状況でした。本種は**収穫後の刈り株や畦畔雑草で越冬するため、収穫後は速やかに刈り株をすき込み、ほ場周辺の除草を徹底しましう。**

4 その他

イネ白葉枯病、イネ縞葉枯病、ニカメイガが発生した地域では、次作における箱施薬を検討しましう。

表 ヒメトビウンカの縞葉枯ウイルス保毒虫率

(令和4年6月にコムギほ場で実施)

(簡易 ELISA 法により検定、(※)はコムギほ場畦畔から採取)

調査場所		検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
弥富市	鍋田町	15	0	0.0
飛島村	新政成	15	0	0.0
西尾市	小栗町	10	1	10.0
	一色町養ヶ島	10	0	0.0
	吉良町荻原	10	0	0.0
	和気町	20	0	0.0
	小焼野町	20	1	5.0
	碧南市	縄手町(※)	5	0
刈谷市	小垣江町(※)	13	0	0.0
岡崎市	在家町	30	1	3.3
安城市	寺領町	30	2	6.7
	赤松町	35	2	5.7
	榎前町	35	0	0.0
	高棚町	20	0	0.0
	里町	40	4	10.0
豊田市	榑塚東町	40	0	0.0
	福受町	35	1	2.9
	中町	20	0	0.0
	和会町	40	0	0.0
	田代町	10	2	20.0
	前林町	10	2	20.0
豊川市	御津町広石	35	0	0.0
長久手市	農総試内	30	1	3.3
計		528	17	3.22



図 イネ縞葉枯病 (ゆうれい症状)